

既製コンクリート杭の施工管理 正誤表

日頃より当協会発行のテキスト（2008年6月版）をご利用くださいますありがとうございます。

上記テキストにおいて誤植がありましたので、下記をご確認の上、訂正してお使いいただきますようお願い申し上げます。

社団法人コンクリートパイロ建設技術協会

ページ等	誤	正
P19 図-1.2.17	0.001m 0.005m 0.075m	0.001 mm 0.005 mm 0.075 mm
P47 下から10行目	普通、早強、超早強、中庸熟、耐硫酸塩の6種類があり、	普通、早強、超早強、中庸熟、 <u>低熟</u> 、耐硫酸塩の6種類があり、
P66 上から3行目	炭素量0.1~0.3%程度は次のとおりである	炭素量0.1~0.3%程度は <u>おおよそ</u> 次のとおりである
P66 上から4行目	・比重：7.85	・ <u>密度</u> ：7.85 g/cm ³
P69 図-1.6.3 図-1.6.4	(図の中) m ₁ m ₂ G；万有引力定数 $G \doteq 6.673 \times 10^{11}$ N m ² /kg ² 9.80	<u>m₁</u> <u>m₂</u> G；万有引力定数 $G \doteq 6.673 \times 10^{-11}$ N m ² /kg ² <u>9.8</u>
P70 上から2行目	「重さ=質量」を量る場合、われわれは通常「量り」を使用する。これらの量りは重力を	(前文削除) <u>「量り」は重力を</u>
P77 上から6行目	P1とP2の作用点A、Bに水平方法に	P1とP2の作用点A、Bに水平 <u>方向</u> に
P78 図-1.6.17		

ページ等	誤	正												
P79 図-1.6.18														
P79 下から3行目	$M_{\max} = \frac{P \cdot a \cdot b}{L}$	$M_{\max} = \frac{P \cdot a \cdot b}{L}$												
P80 上から6行目	ただし、ワイヤロープ (ア), (イ) の長さは	ただし、ワイヤロープ (イ) , (ウ) の長さは												
P82 図-1.6.21	$A_1 \quad A_2 \quad A_3 \quad P_1 a \quad P_2 a \quad P_3 a$ $A_1 = A_2 = A_3$ $P_1 a < P_2 a < P_3 a$	$A_1 \quad A_2 \quad A_3 \quad P_1 \quad P_2 \quad P_3$ 断面積 : $A_1 = A_2 = A_3$ 荷重 : $P_1 < P_2 < P_3$												
P84 上から4行目	材軸方向の垂直効力度	材軸方向の垂直 応 力度												
P135 表-2.1.1	(備考欄上から2段目) JIS 強化 PHC 杭を含む	削除												
P143 上から14行目 上から16行目 上から18行目	JIS A 5308 の附属書7 附属書8〔骨材アルカリシリカ反応性 ～ ただし、同附属書6 (セメントの選定等による アルカリ骨材反応の抑制対策の方法) による JIS A 5011 に規定する高炉スラグ骨材を使用する 場合は、この限りではない。	JIS A 1145 JIS A 1146 〔骨材のアルカリシリカ反応性 ～ ただし、 JIS A 5308 附属書2 (規定) (アルカリシリカ反応抑制対策の方法) による JIS A 5011-1 に規定する高炉スラグ骨材を使用する 場合はこの限り ではない。												
P147 下から12行目	オートクレーブ養生が	オートクレーブ養生 (高温高圧蒸気養生) が												
P154 下から14行目	2) 構造計算と適合性判定 (ピアチェック)	2) 構造計算適合性判定制度												
P154 下から11行目	この改正では、高さ 20m を超える鉄筋コンクリート造の建築物など一定の高さ以上などの	この改正では、 一定の規模の												
P161 表-2.2.4	<table border="1" style="width:100%; text-align:center;"> <tr> <td>道路橋示方書</td> <td>80</td> <td>23.0</td> <td>34.5</td> </tr> </table>	道路橋示方書	80	23.0	34.5	<table border="1" style="width:100%; text-align:center;"> <tr> <td rowspan="2">道路橋示方書</td> <td>軸圧縮</td> <td rowspan="2">80</td> <td>23.0</td> <td>34.5</td> </tr> <tr> <td>曲げ圧縮</td> <td>27.0</td> <td>40.0</td> </tr> </table>	道路橋示方書	軸圧縮	80	23.0	34.5	曲げ圧縮	27.0	40.0
道路橋示方書	80	23.0	34.5											
道路橋示方書	軸圧縮	80	23.0	34.5										
	曲げ圧縮		27.0	40.0										
P214 上から2行目 上から4行目	立会いのもので、 打込んで置くとよい。	立会いのものと、 打込んで お くとよい。												
P224 下から3行目	材のみならずハンマにも時の貫入量は悪影響を	材のみならず ハンマにも悪影響 を												
P246 表 (中詰め充填材の欄)	比重 ・ボーム比重計等による。	密度 ・マッドバランス等による。												

P252, P253 【根固め液配合計算例】

誤	正
<p>【根固め液配合計算例】</p> <p>埋込み杭工法（セメントミルク工法）φ600mmの根固め液 W/C=70%程度（質量比 水：セメント =1:1.4, W/C=71.4%）の配合計算を行う。</p> <p>・必要練り上がり量 V_0 の計算</p> <p>条件；</p> <p>掘削径 $D=0.7$ m 根固め注入高さ $H=2.0$ m 土砂混入率 $\lambda=0.1$ 安全率 $n=1.3$</p> <p>必要練り上がり量 $V_0=n(1-\lambda) \frac{\pi}{4} D^2 H$</p> $=1.3 \times (1-0.1) \times \frac{3.14}{4} \times 0.7^2 \times 2.0$ $=0.91 \text{ m}^3$ <p>・セメント、水の配合量の計算</p> <p>$V_0 = V_w + V_c$</p> $= \frac{W_w}{\gamma_w} + \frac{W_c}{\gamma_c}$ $= W_c \left(\frac{W_w}{W_c} + \frac{1}{\gamma_c} \right)$ <p>ゆえに、セメント質量 W_c は、上式を変形して、</p> $W_c = \frac{V_0}{\left(\frac{W_w}{W_c} + \frac{1}{\gamma_c} \right)}$ <p>ここで、$\frac{W_w}{W_c}$；水セメント比であるから</p> $= \frac{0.91}{\left(0.714 + \frac{1}{3.16} \right)}$ $=0.883 \text{ t} \quad (\approx 880 \text{ kg})$ <p>水の量 W_w は $\frac{W_w}{W_c}=0.714$ より</p> $W_w = 0.714 \times 0.883$ $=0.630 \text{ t} \quad (630 \text{ } \ell)$ <p>・計算結果の検証</p> $V_0 = \frac{W_w}{\gamma_w} + \frac{W_c}{\gamma_c}$ $= \frac{0.630}{1.0} + \frac{0.880}{3.16}$ $=0.908 \quad (\approx 0.91 \text{ m}^3) \quad \text{OK}$ <p>・配合されたセメントミルクの比重 γ_0（単位体積重量）</p> $\gamma_0 = (W_c + W_w) / V_0$ $= (0.880 + 0.630) / 0.91$ $=1.659$	<p>【根固め液配合計算例】</p> <p>埋込み杭工法（セメントミルク工法）φ600mmの根固め液 W/C=70%程度（質量比 水：セメント =1:1.4, W/C=71.4%）の配合計算を行う。</p> <p>・必要練り上がり量 V_0 の計算</p> <p>条件；</p> <p>掘削径 $D=0.7$ m 根固め注入高さ $H=2.0$ m 土砂混入率 $\lambda=0.1$ 安全率 $n=1.3$</p> <p>必要練り上がり量 $V_0=n(1-\lambda) \frac{\pi}{4} D^2 H$</p> $=1.3 \times (1-0.1) \times \frac{3.14}{4} \times 0.7^2 \times 2.0$ $=0.91 \text{ m}^3$ <p>・セメント、水の配合量の計算</p> <p>$V_0 = V_w + V_c$</p> $= \frac{W_w}{\rho_w} + \frac{W_c}{\rho_c}$ $= W_c \left(\frac{W_w}{W_c} + \frac{1}{\rho_c} \right)$ $= W_c + \frac{W_c}{\rho_c}$ <p>ゆえに、セメント質量 W_c は、上式を変形して、</p> $W_c = \frac{V_0}{\left(\frac{W_w}{W_c} + \frac{1}{\rho_c} \right)}$ <p>ここで、$\frac{W_w}{W_c}$；水セメント比であるから</p> $= \frac{0.91}{\left(0.714 + \frac{1}{3.16} \right)}$ $=0.883 \text{ t} \quad (\approx 880 \text{ kg})$ <p>水の量 W_w は $\frac{W_w}{W_c}=0.714$ より</p> $W_w = 0.714 \times 0.883$ $=0.630 \text{ t} \quad (630 \text{ } \ell)$ <p>・計算結果の検証</p> $V_0 = \frac{W_w}{\rho_w} + \frac{W_c}{\rho_c}$ $= \frac{0.630}{1.0} + \frac{0.880}{3.16}$ $=0.908 \quad (\approx 0.91 \text{ m}^3) \quad \text{OK}$ <p>・配合されたセメントミルクの密度 ρ_0（単位体積質量）</p> $\rho_0 = (W_c + W_w) / V_0$ $= (0.880 + 0.630) / 0.91$ $=1.659 \text{ t/m}^3$

ページ等	誤	正																								
P254	・平均圧縮強度 $\sigma_1 = \frac{\sigma_1 + \sigma_2 + \sigma_3}{3}$	・平均圧縮強度 $\sigma = \frac{\sigma_1 + \sigma_2 + \sigma_3}{3}$																								
P262 上から2行目	掘削深度をロータリーエンコーダで、	掘削深度を <u>ロータリー</u> エンコーダで、																								
P264 表 (根固め液の欄)	比重 ・ボーム比重計等による。 練上がり量 (m ³)	密度 ・ <u>マッドバランス</u> 等による。 練上がり量 (<u>m³</u>)																								
P265 表 (根固め液の欄)	比重 ・ボーム比重計, マッドバランス等使用 ・計算比重値との照合	密度 ・ <u>マッドバランス等による。</u> ・計算 <u>密度</u> との照合																								
P287 表 (セメントミルクの欄)	比重 ・ボーム比重計等による。	密度 ・ <u>マッドバランス</u> 等による。																								
P291 表 (セメントミルクの欄)	比重 ・ボーム比重計等による。	密度 ・ <u>マッドバランス</u> 等による。																								
P298 表 (セメントミルクの欄)	比重 ・ボーム比重計等による。	密度 ・ <u>マッドバランス</u> 等による。																								
P308 表-2.3.35	早すぎるとき (2カ所) 早くする。(2カ所)	速すぎるとき 速くする。																								
P319 表-2.3.39	(1. 規定トルクは下表による。の表内) <table border="1" style="width:100%; text-align:center;"> <tr> <td>300~400</td> <td>I, II</td> <td>M12</td> <td>目安40以下</td> <td>70</td> </tr> </table>	300~400	I, II	M12	目安40以下	70	<table border="1" style="width:100%; text-align:center;"> <tr> <td>300~400</td> <td>I, II</td> <td>M12</td> <td>目安40以下</td> <td>60</td> </tr> </table>	300~400	I, II	M12	目安40以下	60														
300~400	I, II	M12	目安40以下	70																						
300~400	I, II	M12	目安40以下	60																						
P326 上から1行目	種類ついて	種類 <u>に</u> ついて																								
P338 上から5,7行目	ヘッド (2カ所)	ビット																								
P343 下から17行目	8.0N/mm ²	80N/mm²																								
P381 上から3行目	比較対象ができる	比較 <u>対照</u> ができる																								
P418 表-3.3.7	平板載荷試験結果 (JIS A 1215) <table border="1" style="width:100%; text-align:center;"> <thead> <tr> <th>地 点 No.</th> <th>K₃₀値を求めた沈下量 (cm)</th> <th>K₃₀ (kg/cm²)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>0.25</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>0.25</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>0.25</td> <td>24</td> </tr> </tbody> </table>	地 点 No.	K ₃₀ 値を求めた沈下量 (cm)	K ₃₀ (kg/cm ²)	1	0.25	25	2	0.25	20	3	0.25	24	平板載荷試験結果 (JIS A 1215) <table border="1" style="width:100%; text-align:center;"> <thead> <tr> <th>地 点 No.</th> <th>K₃₀値を求めた沈下量 (mm)</th> <th>K₃₀ (MN/m²)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>2.5</td> <td>250</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>2.5</td> <td>200</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>2.5</td> <td>240</td> </tr> </tbody> </table>	地 点 No.	K ₃₀ 値を求めた沈下量 (mm)	K ₃₀ (MN/m ²)	1	2.5	250	2	2.5	200	3	2.5	240
地 点 No.	K ₃₀ 値を求めた沈下量 (cm)	K ₃₀ (kg/cm ²)																								
1	0.25	25																								
2	0.25	20																								
3	0.25	24																								
地 点 No.	K ₃₀ 値を求めた沈下量 (mm)	K ₃₀ (MN/m ²)																								
1	2.5	250																								
2	2.5	200																								
3	2.5	240																								
P418 下から5行目	この結果, 50~60t/m ² の荷重までには降伏点は認められず, 11.4t/m ² の杭打ち機荷重	この結果, 500~600kN/m² の荷重までには降伏点は認められず, 114kN/m² の杭打ち機荷重																								
P423 表-3.4.2の右欄	普通・ランクより	普通・ <u>ラング</u> より																								
P438 上から3行目	対象の音があるときの騒音計の指示	対象の音があるとき <u>とないとき</u> の騒音計の指示																								
P445 下から1行目	なお、処分場の形式と	なお、処分場の <u>型式</u> と																								
P446 表-4.4.1	処分場の形式	処分場の <u>型式</u>																								
P461 上から2,3行目	有効期間満了の日前30日前までに許可の	有効期間が <u>満了する日の30日前</u> までに許可の																								
P474 上から9行目 上から17行目	以上のことから、乗車、積載および牽引の制限の関係を図示すると図のとおりとなる。 ① 貨物が分割できないため、むを得ず	削除 ① 貨物が分割できないため、 <u>やむを得ず</u>																								
P484 上から2行目 P484 下から8行目 P484 下から3行目	図1. に示す 度数法と弧度法 Y. L. chang	(削除) 4. 度数法と弧度法 Y. L. Chang																								